



研究用試薬

## ヒストファイン

第一抗体

抗グリア線維性酸性プロテインモノクローナル抗体(GA5) (ヒストステイナー用)  
(動物種: マウス)

包装: 60テスト(12mL)

Code: 718491

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性及び抗原分布: ヒトグリア線維性酸性プロテイン(GFAP)と反応する。一部のアストロサイトおよび中枢神経の上皮細胞と反応するが、オリゴデンドロサイトやニューロンとは反応しない。また、他の中間フィラメントタンパクとは反応しない。
- クローン名: GA5
- アイソタイプ: IgG1,  $\kappa$
- 免疫原: ブタ脊髄から精製したグリア線維性プロテイン
- 製法: ハイブリドーマの培養上清より得ている。

## 1. 内容

第一抗体・・・抗グリア線維性酸性プロテインモノクローナル抗体(GA5)(動物種: マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

## 2. 使用目的

組織、細胞中のGFAPの染色。

ホルマリン固定パラフィン包埋切片の免疫染色に使用できる。

研究用としてのみ使用すること。

## 3. 使用方法

組織切片の場合、前処理(抗原賦活化)を必要としない([切片の準備][脱パラフィン]は裏面の■操作手順参照)。

■組織の固定状況等が染色結果に影響を及ぼすため学会等が推奨する固定液や固定時間を遵守し、検体の取扱いには十分注意すること。染色条件を変更することで良好な染色結果が得られる場合があるが、組織へのダメージや偽陽性化、偽陰性化が起こるおそれがあるため、研究者自身の責任において至適条件をよく検討すること。

- 1) 本品を他の試薬とともに試薬ラックにセットする。各試薬のボトルキャップを外す。
- 2) ヒストステイナーの操作法に従って染色を開始する。
- 3) 染色終了後、セットした試薬はすみやかにボトルキャップをして2-8°Cに保存する。

## 4. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 試薬名        | 抗グリア線維性酸性プロテインモノクローナル抗体(GA5) |
| 試薬略称(10文字) | GFAP-MMr                     |
| バーコード      | GFAP-MMr                     |
| 時間(分)      | 30                           |

## 5. 貯法及び使用上の注意

1. 2-8°C保存。
2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。
3. 使用前に室温に戻すこと。
4. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。
5. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

## 6. 取扱い上(危険防止)の注意

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本品に関する化学物質の安全情報は安全データシート(SDS)を参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本品の廃棄の際には、各施設や地域及び国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱いに注意が必要である。
6. 本品にはアジ化ナトリウムが含まれている。アジ化ナトリウムは水道管に含まれる銅、鉛との反応によって爆発の危険性があるので、多量の水とともに洗い流すこと。
7. ヒト由来の検体は、感染の恐れがあるので適切な取扱い及び廃棄法を用いるとともに、免疫染色を実施するにあたって、関連技術及び操作法に充分習熟しておかなければならない。

## 7. 参考文献

- (1) de Armond SJ, et al. The application of glial fibrillary acidic (GFA) protein immunohistochemistry in neurooncology. A progress report. *Pathol Res Pract.* 1980;168(4):374-94.
- (2) Velasco ME, et al. Immunohistochemical localization of glial fibrillary acidic protein in human glial neoplasms. *Cancer.* 1980 Feb;45(3):484-94.
- (3) Bonnin JM, et al. Subependymal giant cell astrocytoma. Significance and possible cytogenetic implications of an immunohistochemical study. *Acta Neuropathol.* 1984;62(3):185-93.
- (4) Royds JA, et al. An immunohistochemical study of glial and neuronal markers in primary neoplasms of the central nervous system. *Acta Neuropathol.* 1986;70(3-4):320-6.
- (5) Debus E, et al. Monoclonal antibodies specific for glial fibrillary acidic (GFA) protein and for each of the neurofilament triplet polypeptides. *Differentiation.* 1983;25(2):193-203.
- (6) Coakham HB, et al. Diagnosis of cerebral neoplasms using monoclonal antibodies. *Prog Exp Tumor Res.* 1985;29:57-77.

## ■操作手順

[切片の準備]

1. 切片を 3-6 $\mu$ mに薄切し、poly-L-lysineまたはシラン等の切片用接着剤をコーティングしたスライドに貼り付け、37℃の恒温器で十分に乾燥させる。

[脱パラフィン]

2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS